

鈴木商店と鉄道

鈴木商店は明治から昭和初めに掛けて世界的に活躍した神戸の総合商社だ。樟脳や砂糖の貿易商から製造業へ発展し、造船や製鉄などの重工業へと事業展開した。神戸や門司、下関の海岸線の風景を工業地化で一変させるほどの勢いだった。大正時代には売上がGNPの1割に達し、日本一の総合商社となった。大番頭金子直吉が「三井や三菱と天下を三分する」と宣言するまでに発展したが、米騒動の際にはデマによって庶民の目の敵にされ、本社が焼き討ちにあっってしまう。

その後、第1次世界大戦終戦による好景気の反動や関東大震災などにより、昭和金融恐慌が起きる。それにより、鈴木商店自体は1927(昭和2)年に破綻した。系列会社の中にはライバルの三井系列となったところもある。一方で神戸製鋼、帝人、旭石油(昭和シェル)は自主再建した。また、IH1(播磨造船所)や太陽鋳工(太陽産業)、日本製粉、双日(日商)、サッポロビールなど、今なお活躍する数々の大企業の源流となった企業もある。

政界にも優秀な人材をいくつも輩出し、鈴木商店の華々しい活躍はいくつもの小説やTVドラマ、マンガや舞台演劇などの題材にされている。

鈴木商店は1933年に債務を返済して解散したが、法人登録は登記簿閉鎖された状

態で残っている。2017年、神戸市の鈴木商店跡地に門司工場が使われていたレンガを利用した記念碑が設置された。

未成線の中には、鈴木商店やその関係者が関わったものがある。そのいくつかを紹介しよう。

1 但馬輕便鉄道 兵庫県日高村江原(現・豊岡市日高町)―三方村(現・豊岡市日高町) 鯨石の運搬用として1916(大正5)年に敷設免許が交付される。工事認可されたが、1919(大正8)年に鈴木商店は断念。

2 神戸地下鉄道 神戸市

神戸市内の東西をつなぐ地下鉄道。1928(昭和3)年、神戸市会に申請するも、却下される。146ページ参照。

3 阪神海岸鉄道 神戸市葺合浜(神戸市中央区)―大阪市此花区

1923(大正12)年に申請されるも、実現せず。162ページ参照。

4 明三輕便鉄道(明石鉄道) 明石町(現・明石市)―三木町(現・三木市)

1911(明治44)年に申請、1912(大正元)年に免許が交付されるも、計画中止

公営・私鉄編

に。鈴木商店がどのように関わったのかは不明だが、上申書の下書きが鈴木家で見つかっている。

5 相生臨港鉄道 那波停車場(現・相生駅)―相生町(現・相生市)

1927(昭和2)年に免許申請されたが、却下された。

6 肥筑軌道(肥筑軽便鉄道) 鉄道院線久留米駅(現・JR久留米駅)―院線佐賀駅(現・JR佐賀駅)

1916(大正5)年、肥筑軌道設立。その後に設立された肥筑軽便鉄道の路線がほぼ同じことから、軽便鉄道による合併が決まる。鈴木商店も経営に加わるが、計画は頓挫。買取も白紙になる。その後、部分開業するも1935(昭和10)年に廃止。

7 羽幌炭礦鉄道(名羽線) 北海道羽幌町

鈴木商店破綻後、系列の太陽曹達が羽幌炭鉱の石炭を運搬するために設立。84ページ参照。